

彙報

東京大学史料の保存に関する委員会彙報

第一回 昭和61年11月27日(木)

議題 一、委員長代理の選出について 二、幹事の選出について 三、東京大学百年史編集史料の保存について 四、その他

摘要 第三の議題にかかわり、百年史編集委員会解散後の当面の措置について及び将来構想について自由な意見の交換が行われた。

第二回 昭和62年1月8日(木)

議題 一、東京大学史料保存の基本方向ならびに当面の措置等について 二、その他

摘要 委員長私案の「東京大学史料保存の基本方向ならびに当面の措置等について(案)」の逐条審議を行う。

第三回 昭和62年2月20日(金)

議題 一、東京大学史料保存の基本方向ならびに当面の措置等について 二、その他

摘要 前回に引き続き「東京大学史料保存の基本方向ならびに当面の措置等について(第二次案)」の逐条審議を行い、同案を修正し総長へ答申することが了承された。

(昭和62年2月27日、総長に「東京大学史料保存の基本方向ならびに当面の措置等について」を答申する。)

第四回 昭和62年3月3日(火)

議題 一、東京大学史料室規則(案)につい

て 二、その他

摘要 総長への答申に盛り込まれた東京大学史料室の規則(案)について逐条審議を行い、一部修正のうえ、評議会等に付議することにつき了承される。その他として、史料室室員の人事、「東京大学史料センター(仮称)」設置の概算要求、史料室の運営費について審議が行われた。

(昭和62年4月21日、評議会にて「東京大学史料室規則」承認される。)

第五回 昭和62年4月28日(火)

議題 一、東京大学史料室利用規則(案)について 二、その他

摘要 史料室の発足に伴い、同室利用規則(案)につき逐条審議を行う。その他として、史料室の今年度予算、来年度の概要等について審議を行う。

第六回 昭和62年6月30日(火)

議題 一、東京大学史料室利用規則(案)について 二、東京大学史料室文献複写申し合わせ(案)について 三、今後の計画について 四、その他

摘要 前回継続課題となった史料室利用規則(案)が了承され、文献複写申し合わせ(案)の逐条審議が行われた。今後の計画では学内行政文書の譲り渡しのルールについて審議が行われた。その他としては、資料の寄託契約、来年度予算、委員および

幹事の委嘱、概算要求について意見交換が行われた。

第七回 昭和62年9月29日(火)

議題 一、東京大学史料室の利用状況等について 二、東京大学史料室文献複写申し合わせ(案)について 三、今後の計画について 四、その他

摘要 今回から史料室の利用状況及び業務報告が行われた。前回継続課題となった文献複写申し合わせ(案)が了承された。今後の計画については、来年度予算及び史料室通信発行が了承され、次いで概算要求の審議が行われ、ワーキング・グループを設置することが了承された。

(昭和62年10月29日(木)、「東京大学史料センター(仮称)」設立のためのワーキング・グループの第一回打ち合わせ会が行われる。)

第八回 昭和62年11月9日(月)

議題 一、行政文書の移管後の取り扱いについて 二、東京大学史料センター(仮称)の概算要求について 三、東京大学史料室の利用状況について 四、その他

摘要 まず史料室利用状況及び史料室ニュースの印刷仕様の報告があり、次いで議題の二に関して意見交換が行われ、大学事務局及び史料室双方にとって重要な問題であるため、よく相談して態勢を整えていくこととなる。概算要求についてはワーキ

ング・グループで検討した内容の概略説明が行われ、種々の意見交換が行われた。
〔昭和62年12月21日(月)、第二回のワーキング・グループ打ち合わせ会が行われる。〕

第九回 昭和63年1月25日(月)

議題 一、東京大学史料センター(仮称)の概算要求について 二、東京大学史料室の利用状況について 三、その他

摘要 まず史料室の利用状況及び史料室ニュース作成の進捗状況の報告があり、次いで「東京大学史料センター(仮称)概算要求書(案)」に関するワーキング・グループにおける検討の経緯が説明され意見交換が行われた。

〔昭和63年2月26日(金)、森総長と寺崎委員長との懇談が行われる。〕

第一〇回 昭和63年3月15日(火)

議題 一、東京大学史料センター(仮称)の概算要求について 二、東京大学史料室の利用状況について 三、その他

摘要 冒頭、2月26日の総長懇談について、史料センター(仮称)は大講堂の修復計画に含めて考えており、計画の第二段階になるとの説明があったのち、意見交換が行われた。次いで史料室の利用状況および史料室ニュースの創刊について報告及び意見交換が行われた。最後に63年度の史料室体勢については予算は校費となり、

室員現状通りとなる旨報告があった。

第一一回 昭和63年4月18日(月)

議題 一、東京大学史料室の人事について 二、その他

摘要 まず史料室ニュースの創刊号の披露があり、配布方法等につき意見交換が行われた。次いで室員の人事について審議が行われた。

第二回 昭和63年7月4日(月)

議題 一、東京大学史料室の利用状況について 二、その他

摘要 会議に先だち、新室員の紹介及び採用経過について報告が行われた。議題に入り、まず、今年度より『東京大学史紀要』を統刊出来るようになり、本委員会編集・刊行を行うことになる旨報告があり、担当委員が決定された。次に史料室の利用状況について報告があった。さらに「東京大学事務局文書管理規則」の全部改正により、文書の東京大学史料室への移管が規則上に定められた点が紹介され、おもに移管と廃棄の関係について種々意見が交換された。また、昭和64年度概算要求について意見交換があった。

第三回 昭和63年11月21日(月)

議題 一、東京大学史料室の利用状況について 二、東京大学史紀要(第七号)の編集について 三、「東京大学史料セン

ター(仮称)設立のための概算要求について 四、その他

摘要 まず、議題一について報告があった。

次に議題二について報告があり、それとの関連で、編集は東京大学史料の保存に關する委員会とし、発行は東京大学史料室とすることが決定された。編集者と発行者の英語名称は改めて正式に決めることとなった。第三の議題については、予算を通すためにセンター案の規模が適切かどうかについて意見が交換された。続いて、「東京大学史料室ニュース」第二号について初校校正刷りに基づき説明があり、また昭和64年度東京大学史料室の体制と人事につき、討議された。最後に委員長が辞意を表明し、新委員長人事について了解が得られた。

○東京大学史料の保存に関する委員会ワーキング・グループ打ち合わせ会開催

第一回 昭和62年10月29日(木)

担当：川上秀光・伊藤隆・池田温
列席：中野実

第二回 昭和62年12月21日(月)

担当：川上秀光・伊藤隆・池田温
列席：中野実

○東京大学史料保存の基本方向ならびに
当面の措置等について

昭和62年2月27日

I. 基本方向

1. 東京大学の歴史にかかわる文書を中心とした
資・史料に学術的な価値を認め、それらの系統
的な収集・保存を行うとともに、公開利用に備
える必要がある。日本近代学術史・教育史・文
化史上に本学の果してきた役割と位置を考える
とき、この作業は学術上・行政上多大の貢献裨
益をなすものと期待される。

2. この措置を実現するため、昭和62年度以降、
「東京大学史料センター(仮称)」(東京大学百
年史編集史料保存に関する懇談会答申)、昭和
61年3月31日付参照)の創設をめざして概算要
求を作成する等の具体的方策がとられる必要が
ある。なお、上記の構想については、大講堂(安
田講堂)の改築・再利用の計画を考慮して立案
される必要がある。

3. 当面緊急の問題として、東京大学百年史編集
委員会によって収集・保存されずに編集のた
め活用されてきた諸家文書、寄託文書等につい
ては、その散逸を避けるとともに、さらに整理・
保存を図り今後の年史編纂に備えるとともに、
これを公開利用する体制を整える必要がある。
百年史の完成を機縁として、今後新資料の寄
託申し出も継続して生起する可能性がある。そ

の受け入れ体制についても充分に考慮しておく
必要がある。

II. 当面の措置

1. Iに示した方向に沿って、当面、下記よう
な諸事業を行っていく必要がある。

A. 百年史編集室が従来行ってきた作業につい
て、これを中断せずに行っていくことが要請
される。

(ア) 将来寄託される資料の受け入れ、保管。

(イ) 東京大学における非現用公文書類の受け
入れ、整理ならびにデータ・ベースの作成。

(ウ) 東京大学に関する各種資料・データの収
集・提供。

B. 部局史編纂の過程で利用された資料あるい
は部局所蔵の現用・非現用文書、資料等につ
いても、可能な限りその所在を確認し、総合
的な目録を作成する等の作業を行う。

C. 東京大学の学術史・教育史に関する基礎的
研究活動を継続し、これを通じて将来の年史
編纂の準備にあてると共に、学術情報の交流
に資することが望まれる。そのためには、
(ア) 『東京大学史綱要』『東京大学史料目録』
の編集・刊行

(イ) 学術史・教育史上価値をもつ史料類の復
刻等の作業が必要である。

D. 学内所蔵資料、編集室寄託文書については、

すでに外部からの閲覧希望者があいついでい
る。これに対応するためにルールをつくり、
利用サービスの方を講ずることが要請される。
E. 大学図書館(UNIVERSITY ARCHIVES)
に関する調査、研究を行い、将来の体制につき
準備すること。

2. 以上記した活動を行うためには、百年史編集
室閉室後、「東京大学史料センター(仮称)」の
ような恒久的機構が発足するまでの過渡的期間
に次のような暫定的措置がとられる必要がある。

A. 編集室解散後、これを「東京大学史料室
(仮称)」として再組織すること。

B. 同室には、現行規模の専任者定員と施設面
積を確保すること。とくに助手ならびに職員
等の人員を確保してII-1にあげた活動を遂
行する措置を講ずること。

C. 諸活動を行うために必要な予算措置を講じ
ること。

D. 同室の企画・運営等については当面「東京
大学史料の保存に関する委員会」がこれに当
ること。

ただし、行政にかかわる文書の調査・保存
等については、本部事務局および部局事務室
等と密接な連携協力を必要とする。そのため
の適切な体制をつくり上げていくことが重要
となる。

以上

東京大学史料の保存に関する委員会名簿

委員名及び幹事名は、着任、または変更のあった時のみを委嘱発令の日付であげた。

昭和61年10月14日発令 昭和62年4月1日発令 昭和62年7月1日発令 昭和63年4月1日発令 昭和63年6月10日発令 昭和63年10月14日発令

委員長(第4条)	寺崎昌男(教育・教授)					原 朗(経済・教授)
委員(第5条第1号)	高橋 進(法・教授)					
"	養老孟司(医・教授)					
"	川上秀光(工・教授)					
"	伊藤 隆(文・教授)					
"	阪口 豊(理・教授)					
"	田中 学(農・教授)					
"	原 朗(経済・教授)					
"	鳥海 靖(教養・教授)					
"	寺崎昌男(教育・教授)					
"	古賀憲司(薬・教授)					
"(第5条第2号)	池田 温(東文研・教授)					武田展雄(先端研・助教授)
"	小高 健(医科研・教授)					平石直昭(社研・助教授)
"(第5条第3号)	山崎弘政(図書館・館長)			黒田晴雄(図書館・館長)		
"	斎藤尚夫(事務局・局長)				龍澤博三(事務局・局長)	
"(第5条第4号)	宮地正人(史料・助教授)	藤下 強(文・教授)		江島恵教(文・教授)		
"(第5条第5号)			益田 宗(史料・教授)			
幹事(第3条)	日下 弘(庶務部・部長)					
"			伊藤才一郎(総理部・部長)			

彙報

(付)

東京大学史料室設置経緯

昭和49年5月21日(火)

評議会、「東京大学創立百年記念事業委員会規則」、「東京大学百年史編集委員会規則」制定、東京大学百年史編集委員会、「東京大学百年史編集室要綱」制定(各同日施行)。

昭和51年7月19日(月)

第17回東京大学百年史編集室会議において「東京大学百年史編集室資料閲覧内規」制定(同月20日より施行)。

昭和54年1月22日(月)

百年史編集室、明治大学講師別府昭朗氏よりドイツ及びオーストリアの大学アルヒーフ(文書館)に関する調査報告を受講。

昭和54年6月18日(月)

土田直鎮百年史編集委員会委員長、第11回同委員会にて、東京大学の歴史を示す資料を集めた「東京大学アーカイヴ」の将来にわたる基礎を確保すべく一般的に学内の文書保存の準備を行いたい旨発言。

昭和55年4月

百年史編集室、日本及び諸外国の大学アーカイヴズに関するアンケート調査開始。

昭和56年6月15日(月)

百年史編集委員会委員長、第13回編集委員会にて、東京大学関係資料の保存及びその有効な

利用計画について検討していただきたい旨発言。

昭和56年7月14日(火)

創立百年記念学術研究奨励資金による学内共同研究「東京大学関係諸資料の保存と利用に関する予備的研究」(代表・土田直鎮百年史編集室室長、文学部教授)が採択される。

昭和58年6月

東京大学創立百年記念学術研究奨励資金による学内共同研究「東京大学関係諸資料の保存と利用に関する予備的研究 昭和56・57年度研究調査報告」を提出。

なお、上記報告書は昭和59年1月24日付けの大講堂利用計画懇談会(委員長・森巨総長特別補佐)の答申に盛り込まれ、平野龍一総長に提出された。

昭和60年3月8日(金)

寺崎昌男百年史編集委員会委員長、第16回同委員会にて、百年史編集のために寄託を受けた大量の史料の保存について、「東京大学アーカイヴズ」ともいうべき構想を考えたい旨提案。この提案に対して、学内委員をはじめ学外委員(大久保利謙委員)からもその実現へ向けて強い要請があった。

昭和60年3月26日(火)

東京大学百年史編集室専門委員会、東京大学の沿革資料・学術情報の収集、整理、保存ならびに利用をはかるために恒常的な機関の設置を要望して「東京大学史料センター(仮称)設置

の提案」を平野龍一総長に提出。

昭和60年10月1日(火)

東京大学百年史編集室専門委員会、当面緊急な課題として百年史編集の過程で収集された史料・文書の取り扱いに関して「東京大学百年史編集室収集史料の措置について」を森巨総長に提出。

昭和60年11月13日(水)

森総長の意向を受けて、東京大学百年史編集史料保存に関する懇談会が設置され、同日第一回の会合が開催される(座長・西島和彦総長特別補佐、理学部教授)。

昭和61年2月3日(月)

第二回西島懇談会開催される。百年史編集室専門委員の起草にかかる「東京大学百年史編集史料保存に関する懇談会答申(案)」について種々審議が行われる。審議を踏まえ答申案の再作成が要望され、答申案は西島座長に提出し、懇談会の持ち廻り審議にて正案とすることになる。尚、懇談会は総長への答申提出をもって終了することとなる。

昭和61年3月7日(金)

百年史編集委員会、第17回同委員会にて百年史編集史料の保存についてを議題とする。併せて前記西島懇談会の報告を受ける。

昭和61年3月31日(月)

東京大学百年史編集史料保存に関する懇談会、森総長に最終答申を提出。

昭和61年10月14日(火)

評議会、「東京大学史料の保存に関する委員会規則」制定、同日付け施行(委員長・寺崎昌男教育学部教授)。

昭和62年2月27日(金)

東京大学史料の保存に関する委員会、森総長に「東京大学史料保存の基本方向ならびに当面の措置等について」を提出。

昭和62年4月21日(火)

評議会、「東京大学百年史編集委員会規則」を廃止、同委員会解散。同日、「東京大学史料室規則」を制定、同日付け施行、旧百年史編集室(大講堂5階)に「東京大学史料室」が設置された(室長・寺崎昌男)。

昭和63年4月1日(金)

前年度、委任経理金による支出であった東京大学史料室の経費が、当年度から校費による支出に改められる。

(「東京大学史料室ニュース」第1号より転載加筆して作成した)

東京大学百年史編集室彙報

昭和62年1月から3月までの東京大学百年史編集室の事業の概要、及び4月1日から4月20日までの東京大学史料室の移行期間の概要、及び以後の関連事項等を示す。

昭和62年

1月6日火 北海道大学学生、調査のため来室。
大正13年7月10日の北大農学部と東大農学部の陸上対抗戦について。

1月8日木 第二回東京大学史料の保存に関する委員会開催。

1月13日火 九州大学75年史編集室の二氏来室。
元東京大学予備門教諭横山錦柵の遺族来室。

1月16日金 オイゲン・ヘリガウについて調査依頼を受ける。

1月〜3月継続作業、『学内広報』の記事索引作成(室員西平直担当)。

2月2日月 元総長平賀謙文書整理開始。
2月3日火 明治10年以降の東京大学名の英文表記について照会。

2月 高木八尺文書調査概要作成。

2月16日月 東洋大学一〇〇年史編集室四氏来室
2月20日金 第三回東京大学史料の保存に関する委員会開催。

2月23日月 東京大学百年史編集室専門委員会開催。
2月27日金 最後の東京大学百年史編集委員会、

(第一八回)開催。

3月3日火 第四回東京大学史料の保存に関する委員会開催。

3月9日月 東洋大学一〇〇年史編集室員、創設者井上円了在学時代の教育研究状況の調査のため来室。

3月11、12日水、木 東北大学記念資料室出張(室長寺崎昌男、中野実)。

3月17日火 広報掛長、昭和22、23年の入学試験日について照会。

3月19日木 名古屋大学五十年史編集室より来室。国立公文書館員来室、明治16年関係史料の閲覧。

3月23日月 文学部長と、文学部戦没学生関係史料の収集等につき懇談。

3月頃 教養学部アメリカ研究センター所蔵の高木八尺文書中東京大学関係史料の移管につき協議。

3月27日金 昭和6年医学部薬学科卒業生の聴取り(於・学士会館、担当中野実・前室員酒井豊)。

3月30日月 図書カードボックス搬入。

3月31日火 東京大学百年史編集室閉室。庶務部広報企画課に同室の鍵を返却。

3月 『東京大学百年史』通史編人名索引(未定稿)完成。

3月 『東京大学史紀要』第六号発行、B5判一三三頁、千部印刷、担当小川千代子。

3月 『坪井九馬三史料目録』(東京大学史史料目録12)発行、B5版三七頁、千部印刷、担当小

熊伸一。

4月1日水 庶務部広報企画課長より、旧編集室の鍵を受領。

4月16日木 ㈱イシクラ、近代日本における卒業アルバムの成立調査のため来室。

4月20日月 東京工業大学百年記念館準備資料室を訪問し、手島精一資料を閲覧(中野実)。

6月30日火 東京大学百年史刊行記念懇談会が山上会館地階食堂で午後六時より開催される。

(彙報補・翻刻)

・『平賀謙懐中日記復刻 昭和13年12月〜昭和14年12月』、昭和61年8月(担当中野実・野間教育研究所清水康幸)、B5判、二六頁

東京大学史史料室彙報

昭和62年4月21日設置から、昭和63年12月末までの東京大学史史料室の事業の概要は次の通りである。

〈組織沿革概要〉

- ・昭和61年10月14日火、評議会、東京大学史料の保存に関する委員会規則を制定し、即日施行。
- ・昭和62年4月21日火、東京大学史史料室規則が評議会承認され、即日施行。
- ・同日、東京大学史史料室設置。常勤室員(教官定員)一名。
- ・同日、「東京大学史史料室」の標札かかる。
- ・6月30日火、東京大学史史料室利用規則が第五回東京大学史料の保存に関する委員会で決定され、即日施行。
- ・7月1日水、東京大学史史料室開室。
- ・9月29日火、東京大学史史料室文献撮影等申し合わせが、第七回東京大学史料の保存に関する委員会で決定され、即日施行。
- ・昭和63年3月1日火、『東京大学史史料室ニューズ』創刊。
- ・5月1日火、5月15日火、室員空席。
- ・5月17日火、常勤室員(教官定員)一名、非常勤室員(教務補佐員)一名の体制となる。

〈資料収集・調査活動〉

(協力者は旧百年史編集室員)

○史料寄託・受贈等

- ・昭和62年7月20日火、元総長向坊隆、元庶務部長吉田寿雄、元庶務部長安藤和夫各関係史料寄託。
- ・昭和62年8月5日水、石川謙旧蔵戦時下教育関係史料寄託。
- ・昭和62年8月11日火、元事務局長鶴田酒造雄関係史料寄託。
- ・昭和62年9月10日木、同右史料第二次寄託。
- ・昭和62年9月末以前、元工学部教授稲垣栄三関係資料寄託。
- ・東京開成学校雇外国人教師グリフィス関係資料及び目録入手。
- ・昭和63年2月16日火、法学部附属近代日本法政史料センター原史料部より、元総長加藤一郎文書中東京大学関係史料移管。
- ・昭和63年7月5日火、元東京大学御用掛永井正義関係史料借用。
- ・昭和63年8月4日木、広報企画課より新聞切抜(昭和43年10月12日の第一冊より昭和48年6月20日の第一三冊まで)を受入れ
- ・昭和63年10月7日金、元総長外山正一より田口卯吉宛葉書二一通を借用。
- ・昭和63年11月4日木、元文科大学名誉教授坪井九馬三御遺族と、すでに寄託済の資料を寄贈に変える件に付き、協議。
- ・昭和63年12月3日土、元文学部教授栗田寛関係史料寄託。
- ・昭和63年12月23日金、旧外事掛関係史料を、国

際交流課の幹旋により、受入れ。

・昭和63年12月26日火、元総長渡辺洪基文書の移管依頼を史料編纂所長宛に發送する。

○学外資料の調査

- ・昭和62年4月30日火、元総長長与又郎関係史料調査(担当中野実・野間教育研究所清水康幸・文部省照沼康孝)。
- ・昭和62年6月12日金、元総長平賀謙関係史料調査(担当中野実)。
- ・昭和62年8月24日火、高橋亀吉文庫中、戦時下教育関係史料調査(担当中野実・清水康幸)。
- ・昭和62年8月31日火、元農科大学教授北尾次郎及び旧理学部卒業生酒井佐保関係写真史料調査(担当中野実)。
- ・昭和62年9月12日土、平賀謙関係史料調査(担当中野実・立教大学大学院小熊伸一)。
- ・昭和62年9月末以前、元理科大学教授矢田部長吉史料調査(担当中野実)。
- ・元医学部総理池田謙齋関係史料調査(担当中野実)。
- ・昭和62年10月29日木、加藤弘之書簡史料調査(担当中野実)。
- ・昭和62年11月9日火、昭和63年1月22日金大正12年学友会第一回園遊会関係写真調査(担当中野実)調査。
- ・大正2年東京帝国大学法科大学卒業アルバム調査(担当中野実)。
- ・昭和63年1月23日土、3月14日火

元総長加藤一郎関係資料―東大紛争関係―(担当中野実)。

・昭和63年3月18日金、戦前期の元文部次官田所美治(明治28法卒)関係史料調査(担当中野実)。

・昭和63年4月7日木、元総長菊池大麓関係史料調査(於て東京目白、元原子力研究所長菊池正士家)(担当中野実・清水康幸)。

・昭和63年11月12、13日土、日、都立中央図書館所蔵井上哲次郎関係文書調査(担当中野実)。

○聴取り調査

・昭和63年6月7日火、中央大学において写真資料の整理につき聴取り(中野実)。

・昭和63年9月16日金、東京都公文書館にて同館所蔵文書目録電算化計画について教示を受ける(所澤潤)。

○諸展示会の見学

・昭和63年10月24日月、大隈重信展(中野実)

○諸文書館等の見学

・昭和63年12月15日木、東京都公文書館書庫を見学(所澤潤)。

○図書受贈(図書名は『東京大学史料室ニュース』に掲載)

・昭和62年4月、昭和63年4月、四七点

・昭和63年1月、12月、四九点

○入手図書(学内刊行物以外で直接東京大学を対象とした物。但し受贈図書以外の無償頒布物)

・昭和62年4月、昭和63年3月、〇点

○ファイル資料

・昭和62年4月、昭和63年3月、二八二点

○購入図書

・昭和62年4月、昭和63年3月

・昭和63年4月、昭和63年12月

古書 〇点
新刊 四二点
古書 一点

〈資料公開業務〉

○広報活動

・『東京大学史料室ニュース』(年一回発行)
第一号 一九八八年三月一日付発行。
B5判八頁。千部印刷。

担当…原朗(経済学部教授)

第二号 一九八八年十一月一日付発行

B5判八頁。千部印刷。
担当…原朗(経済学部教授)

所澤潤

○部局等沿革史作成協力

・医学部皮膚科百年史(進行中)

・工学部附属総合試験所五〇周年記念誌(進行中)

・昭和38年医学部卒業生25周年記念アルバム(進行中)

○翻訳

・『平賀謙懐中日記』(一) 昭和15年1月、同年12月、昭和62年6月(担当中野実・野間教育研究所清水康幸)、B5判二六頁

○見学

・昭和63年6月23日、京都大学庶務部広報調査課長及び京都大学庶務部庶務課文部事務官、同大学百年史編纂準備のため来室見学。

○閲覧

・昭和62年7月、9月
閲覧者数延一五名(学内四名、学外一名)
件名

元文科大学教授上田万年留学関係調査／農科大学包摂関係史料／明治以降の本郷キャンパス等

写真史料／元総長古在由直及び昭和二年告示史料／元総長平賀謙関係史料／昭和戦前期航空研

究所嘱託外国人教師関係史料／高等教育会議関係史料／小池行松文書／明治初期年報一覽刊行

関係史料／明治19年加藤弘之謝恩記念会出席者調査／加藤弘之文書／文科大外館外国人教師

「申報」関係史料／ボンベ及び種痘所・医学所等関係史料／明治初期医学部関係史料及び「申報」史料／明治大正期学生生活関係史料

・昭和62年10月～11月6日

閲覧者数延九名(学内一名、学外八名)

件名

明治期の学生生活関係史料について／『東京開成学校一覽』(明治八年英文)の寄贈(複写版)と穂積陳重関係史料調査／明治初期における教育関係史料調査／加藤弘之文書／明治初期の宗教政策史料調査

・昭和62年11月9日～昭和63年1月22日

閲覧者数延一七名(学内五名、学外一二名)

件名

加藤弘之文書／戦前期東京帝国大学における地理学の講義題目について／幕末維新期の医学教育関係史料について／東京大学史・部局史関係文献について／穂積陳重関係史料調査／石川謙旧蔵史料―教育改革同志会史料調査／戦時下教育関係史料について／東京大学関係写真の調査／大学沿革史文献調査／明治宗教政策史関係史料について／名古屋大学史関係史料調査／明治十六年事件関係史料について

・昭和63年1月23日～3月14日

閲覧者数延七名(学内二名(名誉教授を含む)、学外五名)

件名

元総長長与又郎関係史料／帝国大学史関係史料

料／助手制度関係史料／元医学部長三宅秀関係写真について／工部大学卒業生小鹿島果関係史料／加藤弘之関係史料／ホートン、サンマー

ス関係史料

・昭和63年3月15日～4月30日

閲覧者数延四名(学内一名、学外三名)

件名

尾崎行雄に関する工学寮関係史料／文部省往復等／横浜市旧家所蔵和本にある「第一大学開成大学校圖書」の蔵書印と「東京大学私下圖書之印」について調査／史料編纂所沿革調査

・昭和63年5月1日～5月15日

休業

・昭和63年5月16日～7月1日

閲覧者数延一九名(学内二名、学外一七名)

件名

学士会沿革関係史料／史料編纂所沿革調査／明治初期政治思想と加藤弘之との関わりの調査／厚生省成立前後の政治的展開と公衆衛生思想の関わり等につき長与又郎日記等／中央大学創設関係史料／明治初期国際交流に関して、井上哲次郎日記及び坪井九馬三留学関係史料

・昭和63年7月2日～11月15日

閲覧者数延一六名(学内四名、学外一二名)

件名

皮膚科開講(明治期)関係史料／元東京大学御用掛永井正義関係史料／東京帝国大学工科大学助教授伊東忠太の紫禁城調査関係史料／工部大学

校史・同校教員関係調査／学士会沿革史料／帝国憲法成立過程研究のため加藤弘之『最新論』

『郷紳』／小泉八雲関係史料／ドイツ・ウィッセン

シャフトの日本への受容過程の研究のため、明治10年代の關係史料／中央大学創設關係史料／

伝染病研究所移管問題關係史料／第二次大戦下の学生思想形成に関する史料／『大学史研究』

第2号

・昭和63年11月16日～12月28日

閲覧者数延一九名(学内一〇名、学外九名)

件名

学士会沿革史料／昭和四十年代に学内でまかれたピラ資料／大正から昭和初期にかけての東京帝国大学教官の経済学研究的動向調査／帝国大学学生の兵役關係史料／『大隈文書』(単行本全五卷)等／『東京大学百年史 通史』(三)掲載の写真の原版／第二次大戦中の学生思想形成に関する史料／華僑教育關係資料調査のため小池行松氏旧蔵史料／明治30年ごろの『帝国大学会計日誌』(仮称、古書店にて購入)、及び井上哲次郎日記(明治34～37年)／小泉八雲關連史料／戦時下の奈良女高師附属小学校の実践に関する資料調査のため、小池行松氏旧蔵史料／工学部附属総合試験所沿革關係史料と各部局刊行沿革史／帝国憲法成立過程研究のため加藤弘之『最新論』／第二次大戦直後の政治改革と東京大学の関連に関して高木八尺文書

○照会

・昭和62年10月～11月6日
 摘録

明治初期の医学部本館及び鉄門の位置／東大における紀元二千六百年奉祝式について／初代総長渡辺洪基の呼称／東京天文台の設置目的変更の時期について／明治19年制定(勅令)諸学校令の廃止時期について／明治41、44年の中学校令施行規則の改正について

・昭和62年11月9日～昭和63年1月22日
 摘録

日本最初の英語教師マクドナルドの教え子について／昭和35年3月の東京大学におけるテレビ卒業式について／明治24年3月時点の第一高等中学校の学生数及び教員数／人物調査(中村弥六、宇川盛三郎)

・昭和63年1月23日～3月14日
 摘録

工科大学造兵学科の概要について／明治20年医科大学卒業生の予備門時代の同窓生について／国立公衆衛生院と東大の関係について／明治初期医学学校卒業生(吉田貫之、貞準)の確認について／土木工学科卒業生中優等卒業生について／東大英文一覽(カレンダー)用の写真について／大講堂寄附経緯史料について

・昭和63年5月16日～7月1日
 摘録(以下〔〕内は回答)
 (学内事務)

4月12日は本学記念日なのか、創立記念日なのか(学部通則によれば東京大学記念日)／明治21年ポローニヤ大学八百年祭への総長祝辞の所在(不明)

(その他学内、及び一般)

工科大学校お雇い外国人ヘンリー・ダイアーの胸像か立像の所在確認(未判明)／帝国大学医科大学明治24年7月卒業生千葉弥次馬(千葉具眼科医)について／『東京大学百年史 資料一』六七頁掲載の「第一大学区医学校を東京医学校と改称」の達について／昨年か一昨年の新聞に掲載された麻布の天文台の記事掲載の日付／農科大学名誉教授白井光太郎(明治39年教授)のドイツ留学期間(明治32年7月5日出発、34年10月17日帰朝)

・昭和63年7月2日～11月15日
 摘録

(学内事務)

イタリアのポローニヤ大学から総合図書館宛てに来た『東京大学百年史』寄贈依頼について(寄贈する)／(総合図書館より照会)『東京大学史史料室収集の学校史の基準と所蔵冊数』昭和21年改正東京帝国大学庶務規程の所在(調査中)／史料室の蔵書目録のカード化について(一部カード化)／正門の旭日の紋章の由来について(向陵駒場)第2巻第1号に記事あり)／学内銅像関係の調査は『東大のあゆみ』以外にあるか(戦時中の金属回収令関係のものあり。なお昭和63

年9月より庶務部広報企画課により全学調査)／新制大学以降の本学受験者数／蔵前工業と東工大との関係(前身)／明治大正期の給与について／昭和30年、31年の東大の合格発表の日は何時か(30年3月31日早晩、31年3月23日午前零時)／東大では戦後引揚者のために特別の入学処置をしていたか(していた)／『東京大学百年史』掲載の写真原簿(震災直後の八角講堂、炎上する図書館、法科大学講義)、及びボワソナールとモースの写真の所蔵の有無(前者はあり、後者はなし)

(その他学内、及び一般)

『東大人名録』昭和52年版官公庁編の販売について／岡田良平文書の所蔵の有無(なし)／大学紛争時の写真はないか(多少あり)／安田講堂で行われた入学式の写真はるか(多少あり)／修理(今回)される前の正門についていた鉄製の飾りの行方／大講堂寄附の目的、及び便殿利用回数／大講堂に天皇行幸の際の写真の有無／明治11年に現在の東大農学部地に設立された府立の脚気病院の写真か絵図面の所蔵の有無(なし)／昭和初め頃の文学部講師高野辰之の履歴書／故メンデルホール所蔵の写真中の田中館愛橋・藤沢利喜太郎・山川健次郎以外の人物について／帝国大学から東京大学への改称時期、卒業生は何時から東京大学卒業か(昭和22年10月1日改称)／東京大学予備門が神田一ツ橋通町の東大の構内に移った日付は、明治10年9月の何日か

〔調査中〕／日本で最初期の運動会である明治16年の東大の運動会の写真の所蔵の有無。運動会が紅白になったのは何時か(なし、未判明)／法学部経済学科設立に関する評議会の記録は閲覧可能か(非公開)／昭和38年ごろの茅誠司総長写真の所蔵の有無(あり)／昭和38年の卒業式答辞の所在(庶務部庶務課にあり)／大学紛争時のピラの所蔵の有無(あり)／昭和28年6月当時の教養学部教官園池大樹氏、及びその当時理学部大学院地理学教室に居た山階芳正氏(現在は浅野)

について／震災以前と以後の赤門の図面／昭和20年から23年に入学した学生は、東京帝大卒か、東京大学卒か(昭和22年9月30日卒業まで東京帝国大学卒業)／明治20年代に史料編纂に当たっていた山県姓の人物について(文科大学書記山県正藏)／東京大学予備門の創立と廃止日(明治10年4月12日創設、明治19年4月29日第一高等中学校に改組)／明治20年頃の東京大学書記官正木退蔵の東京大学関係の経歴、退職後の状況、及び伝記の有無／著書調所から開成所にかけての島霞谷に関する史料の所蔵の有無(なし)／外人講師ガラントマンに関する史料(オランダ人ハラタマカ)

・昭和63年11月16日～12月28日

摘録

(学内事務)

昭和2年2月7日日本学大正天皇奉悼式において古在総長が読上げた大正天皇奉悼文の所在(未

判明、『帝国大学新聞』に全文掲載)／大正天皇崩御の際の文部省の通牒の所蔵の有無(本室にはなし)／帝国大学の入学資格の変遷(東京大学百年史の記述以上は未整理)／工学博士辰野金吾伝の所蔵の有無(内田祥三文書中に所蔵)／大学の自治について矢内原元総長、南原元総長の論説記事等(あり)

(その他学内、及び一般)

明治学院を出て、明治26年ごろ文科大学選科に入学した古河勇の入学、卒業の時期／『東京大学の百年』三二頁の新正門の写真、一四一五頁の各分科大学の写真は、和辻哲郎在学中の物か(後者は可。前者は一六一七頁の仮正門の写真の方がよい)／開設準備中の姫路市役所文学資料館で史料編纂所内部の一隅を復元する計画のため、同所の内部の写真の所蔵の有無(本室にはなし)／南原総長は、退官した昭和26年末の段階では、総長・学長のいずれか(学内では総長としている)／一九二〇年(大正9年)頃の一高の外人教師ユンカー(B. Junker)に関する史料の有無、問合せ先『検印録』大正四年にあり。また一高資料室等)／公開されている卒業生名簿の所在(塩田幸六(文久2年5月6日生れ)名東県淡路国)について(史料編纂所へ転送)／昭和12～16年の経済学部入学者と入学志望者数／東京大学経済学部五十年史掲載の就職状況一覧表について／東京大学に明治10年4月12日に入学したと伝えられている青森県の石田忠一

(明治天皇の東北巡幸中宿所となった旧家)の確認(工部大学校入学か)

○小目録作成

・昭和62年4月～昭和63年3月(担当中野美)

- 1 「田代義徳関係史料」
 - 2 「蠟山長治郎史料リスト」
 - 3 「長与又郎史料目録」
 - 4 「上野景明史料」
 - 5 「安藤和夫史料」
 - 6 「佐藤彦二郎氏所蔵 東京帝国大学関係写真リスト」
 - 7 「井上民雄氏所蔵 大正2年東京帝国大学法科大学卒業アルバム複製分リスト」
 - 8 「小池聖一氏所蔵 大正7年東京帝国大学法科大学卒業アルバム複製分リスト」
- 番外
- 「平賀謙書簡目録(稿)」
 - 「東京大学庶務部広報企画課移管資料目録」
 - (1) (3)
 - 「鶴田酒造雄資資料(粗目録)」
 - 「昭6会関係資料目録」
 - 「津山洋学資料館所蔵東大関係資料目録(1)」
- ・昭和63年4月～昭和63年12月
- 1 「東大演習林写真集写真目録(付・関係文書リスト)」(担当所澤潤)

〈東京大学百年史〉編集残務処理〉

○「東京大学百年史」編集の残務処理

・「東京大学百年史正誤表」

昭和六十三年三月印刷発行。六月配付。

A5判三〇頁 作成担当中野実。

・「東京大学百年史 通史一」出典一覧。

作成担当中野実。

・原稿、資料等製本

〈対外交流〉

○事業参加

・「東京大学本郷キャンパスの百年」展

東京大学総合研究資料館特別展示実行委員会委

員(中野実)

〈人事〉

○室長

・昭和62年4月21日〜昭和63年10月13日

寺崎昌男(教育学部教授)

・昭和63年10月14日〜現在

原 朗 (経済学部教授)

○常勤室員

・昭和62年4月21日〜昭和63年4月30日

中野実(教育学部助手・併任広報企画課事務官)

・昭和62年5月16日〜現在

所澤潤(教育学部助手・併任広報企画課事務官)

○非常勤室員

・昭和62年5月17日〜現在

中野実(教務補佐員・広報企画課勤務、週1日勤務)

〈規則〉

○東京大学史史料室規則

(昭和62年3月3日第四回東京大学史

料の保存に関する委員会で審議決定の

うえ、評議会に付議し、昭和62年4月

(設置)

第1条 東京大学に東京大学史史料室(以下「史

料室」という。)を置く。

(業務)

第2条 史料室は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 東京大学百年史編集委員会によつて収集さ

れた資・史料の整理及び保管

(2) 寄贈資料の受け入れ、整理及び保管

(3) 東京大学に関する各種資料・データの収

集、整理及び保管

(4) 前各号に定めるもののほか、史料室の業務

に関し必要と認められる事項

2 史料室は、前項に定める資・史料等を別に定

めるところにより、東京大学の教職員等に閲覧

させることができる。

(室長)

第3条 史料室に室長を置く。

2 室長は、東京大学専任の教授のうちから総長

が委嘱する。

3 室長は、史料室の業務を総括する。

(室員)

第4条 史料室に定員若干名を置く。

2 室員は、室長の指示に従い、史料室の業務に

従事する。

(庶務)

第5条 史料室の庶務は、事務局庶務部広報企画

課において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、史料室の

企画・運営等に関し必要な事項は、当分の間、

東京大学史料の保存に関する委員会の定めると

ころによる。

附 則

1 この規則は、昭和62年4月21日から施行する。

2 この規則第3条に定める室長は、当分の間、

東京大学史料の保存に関する委員会委員長をも

つてあてる。

○東京大学史史料室利用規則

(昭和62年4月28日第五回東京大学史

料の保存に関する委員会決定)

(目的)

第1条 この規則は、東京大学史史料室(以下「史

料室」という。)が所蔵する史料及び図書(以下「資

料」という。)の利用について、必要な事項を定めることを目的とする。

(業務)

第2条 史料室は、資料の利用に関し、次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写及び撮影
- (3) 参考調査
- (4) 展示
- (5) その他必要な業務

(資料の公開)

第3条 資料は、原則として公開するものとする。ただし、東京大学史史料室長(以下「室長」という。)は、寄贈又は寄託に係る資料であつて、一定の期間公開しない旨の条件が付されているもの及び個人の秘密保持等の理由により一定の期間公開することが不適当な資料については、その利用を制限することができる。

(利用の範囲)

第4条 資料を閲覧することのできる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 本学の教職員、名誉教授及び元教職員
 - (2) 学術に関する研究・調査を行う者で、所属機関の長又は図書館長等の紹介のある者
 - (3) 本学の学生及び他大学の学生で指導教官の紹介のある者
 - (4) その他、室長が特に許可した者
- (利用の手続)

第5条 資料を閲覧しようとする者は、史料室の職員に紹介状又は身分証明書を提示し、閲覧票に所定の事項を記入しなければならない。

(閲覧の日時)

第6条 資料の閲覧の日時は、土曜日、日曜日、国民の祝日及び12月28日から1月4日までの間を除き、毎日午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず室長が必要と認めるときは、閲覧の日時を変更することができる。

(利用者の義務)

第7条 資料は、史料室で閲覧するものとし、室外への帯出は認めない。

(複写・撮影)

第8条 資料の複写又は撮影に際しては、史料室の備える許可願に必要な事項を記入し、室長の許可を得なければならない。

(賠償責任等)

第9条 閲覧者が資料を滅失、き損又は汚損した場合は、一定期間閲覧を停止するとともに賠償を求めることができる。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、史料室の利用について必要な事項は、別に定める。

附則

1 この規則は、昭和62年6月30日から施行する。
2 第6条に定める閲覧の日時については、当分

の間、火曜日及び水曜日とする。

3 第8条に定める資料の複写及び撮影については、別に定める。

○東京大学史史料室文献撮影等申し合わせ

(昭和62年9月29日第七回東京大学史料の保存に関する委員会決定)

(趣旨)

第1条 この申し合わせは、東京大学史史料室が許可する文献撮影等の方法について必要な取り扱い事項を定めるものとする。

(許可の条件)

第2条 東京大学史史料室が許可する文献撮影等(撮影機等を持参のうえ、自写に限る)は、教育又は研究の用に供するものを目的とする場合に限るものとする。

ただし、東京大学史史料室または旧東京大学百年史編集室が他の研究機関から許可を得て複写したものは、許可しない。

2 許可を受けた場合は、次の条件を遵守しなければならない。

- (1) 申請目的以外に使用しないこと
- (2) 複製物から引用等する場合は、原本が東京大学の所蔵に係るものであることを、適宜の方法によつて表示すること
- (3) 無断で複製物を再複製し、刊行若しくは翻刻し、又は複製物を販売若しくは交換物として使用しないこと

(文献撮影等の手続き)

第3条 文献撮影等を希望しようとする者は、あらかじめ別紙様式による文献撮影等申込書を史料室長に提出し、その承認を得なければならぬ。

附則

この申し合わせは、昭和62年9月29日から施行する。

○東京大学事務局文書管理規則(全文改正、昭和63年7月1日より施行)中第8章に東京大学史料室関係の規則が設けられた。

第8章 文書の分類、編集、保存及び廃棄等

(文書の分類)

第42条 文書の分類は、事務局長が別に定める。

(文書の編集)

第43条 完結した文書は、所管掛において年度別及び分類記号別に区分し、完結順に編集するものとする。

(文書の保存年限)

第44条 文書の保存年限の区分は、次のとおりとする。ただし、他の法令等に別段の定めがある場合は、その定めるところによる。

- (1) 永年
- (2) 20年
- (3) 10年

(4) 5年

(5) 1年

2 文書の保存年限は、第42条の文書の分類ごとに事務局長が定める。

(文書の保管)

第45条 文書の保管については、事務局長が別に定める。

(東京大学史料室への移管)

第46条 前条の規定による保存年限が永年とされた文書で保管の開始後20年以上を経過したものと及び永年保存以外とされた文書で当該保存年限を経過したものは、東京大学史料室へ移管することができる。

2 文書の東京大学史料室への移管については、事務局長が別に定める。

(文書の廃棄)

第47条 保存年限が経過した文書は、文書主任担当者において別記様式第9号(省略)による文書廃棄伺により所管の部長の決裁を受けたのち、文書処理カードに廃棄年月日を記載して廃棄するものとする。

〈その他〉

○施設備品配置換え

・昭和63年12月21日、法学部より移管の書架を本室に搬入。一部を備え付け、多少の配置換えを行う。

編集後記

東京大学史料の保存に関する委員会の寺崎委員長の突然の御指名を受け、紀要の編集担当委員をお引受けし、不馴れながらも所澤室員の御協力を得て、無事第七号の刊行にこぎつけられ、喜びにたえない。このたびは、林健太郎元総長及び寺崎前委員長の御紹介により、鹿子木熊本大学名誉教授より、貴重な論説を頂くことができた。また、通常ならば、文科系の雑誌編集によくある遅れ気味のスケジュールをのみこんでゆっくり推敲された先生方も、原稿募集から締切までの時間が短かったにもかかわらず、大変御努力をされ、こちらのスケジュール通りに貴重な原稿を御提出頂いた。

先生方の御協力に心から御礼を申し上げます。

(阪口 豊)